

花いじり 心いやして



お年寄りと花を植える松本むつみさん
(右から2人目)＝宍粟市山崎町段

こもりがちなお年寄り 亡き母に重なった

宍粟市山崎町の元小学校教諭で園芸療法士の松本むつみさん(59)が「園芸療法」――を始めた。介護施設に閉じこもり気味のお年寄りが外出し、草花に触れたり、地域の人とふれ合ったりすることで、心も体も健やかで過ごせるようになってほしいからだ。

宍粟の元小学校教諭 松本さん

松本さんは2008年3月、35年間務めた小学校教諭を退職。趣味の園芸を楽しむとともに、地域の役に立ちたいと、花や菓子を携えて高齢者の介護施設をボランティアで訪問するようになった。そこで目にしたのは、施設でじっとして外に出ないお年寄りたちだった。同じように施設にこもりがちだった亡き母親の姿が重なった。

実家の花壇で花を育てていると、ふらっと立ち寄ったお年寄りたちが「花を見るといやされる」と口にするが多かった。花の持ついやしの力に気づき、施設に入るお年寄りに青空の下で花をいじらせてあげたいと思うようになった。

10年4月に県立淡路景観園芸学校の園芸療法課程に

「一緒に笑顔咲かせたい」



園芸療法

植物や土に触れる園芸を通じて癒やし効果を得たり、栽培方法を学んだりする。園芸を通して高齢者との接し方を学んだ園芸療法士が、主に高齢者や障害者に、病院や介護施設などで実施。資格は養成課程のある大学や専門学校が個別に認定。県内では県立淡路景観園芸学校(淡路市)に、

全国で唯一、県が認定する園芸療法士を育成する園芸療法課程があり、今春までに125人が認定を受けた。

入学し、1年間、介護施設での高齢者との接し方や心理学などを学んだ。進学して専門的に学ぼうと思ったのは、「安易な声かけはだめ」という教師時代の心残りがあったからだ。

松本さんには、担任した生徒を自殺で亡くした経験がある。生徒は卒業後、松本さんの元を訪れるなどして悩みを話し、シグナルを発してきた。「若いからがんばれ」などと声をかけ、励ましたつもりでいた。

「もう少しよい言葉がなかったのか。今でも思い出して悔やむことがある。」

今年4月、松本さんが園芸療法の拠点にしている実家の花壇に、市内の介護施設に入るお年寄り5人がやってきた。5人は松本さん

と一緒にスコップで土を掘り、花の苗を植え、水をやった。参加した男性(86)は「太陽の下で体動かして話をするのが楽しいね。施設におったら何もすることがないから」と笑顔だ。

認知症などに詳しい県立リハビリテーション西播磨病院の柿本達也医師は「園芸は誰もが抵抗感なくでき、五感を通してあらゆる刺激を自然な形で受けることができるため、認知症の高齢者らに有用」と話す。

「施設に入ったお年寄りでもまだまだ自分で動き、喜びを感じることができはす。花と一緒にお年寄りの笑顔が咲く場所にした」と松本さん。問い合わせは0790・62・7231へ。(神山純一)